

はじめに

「下野谷遺跡」は、武蔵野台地のほぼ中央、石神井川の南岸の高台に位置しており、旧石器時代から近代に至る長い歴史が刻まれた遺跡です。これまでの40年以上にわたる調査・研究の結果、特に今から5,000年から4,000年前、縄文文化が最も大きく花開いた縄文時代中期には、石神井川流域の拠点となるような大集落であったことがわかりました。開発の著しい首都圏において、その保存状態は非常に良好で、都市部でこのような集落が保存されている例は珍しく、また貴重であることから、平成27年3月には国史跡に指定されています。

平成19年には「下野谷遺跡公園」を開園し、国史跡指定以前から市民の皆様や地域の方々の御協力をいただきながら積極的な活用を行ってきたところです。西東京市教育委員会では、この貴重な文化遺産である下野谷遺跡を、未来を創る子どもたちに引き継いでいくために、また、地域の大切な宝として活かしていくために、平成30年3月に「史跡下野谷遺跡保存活用計画」を策定しました。

平成30年度からは、さらなる活用の促進に向けた整備内容について検討するため、「下野谷遺跡整備基本計画策定懇談会」を設置して御意見をいただき、協議を重ねてまいりました。

本計画書は、史跡下野谷遺跡の価値や魅力をわかりやすく伝えるとともに、縄文文化や知恵などを体験・体感・体得することができる整備の内容についてまとめたものです。本計画に基づき、市民の皆様とともに史跡を守り、育てていくことにより、人やまちを結ぶ結節点となり、地域の誇りとなる史跡としていきたいと考えております。

最後になりますが、本計画の策定に当たりまして、下野谷遺跡整備基本計画策定懇談会の各委員の御尽力、文化庁及び東京都教育庁の御指導・御助言、市民の皆様のお協力を賜りましたことを深く感謝申し上げます。

平成31年3月

西東京市教育委員会
教育長 木村 俊二